



ヒューマンコミュニケーショングループ
Human Communication Group

ニュースレター

2004 年度 No.1

URL: <http://www.ieice.org/hcg/jpn/>

Contents

- ・ 新運営委員長挨拶
- ・ 第1回ヒューマンコミュニケーション賞授賞報告
- ・ 第9回 HCG シンポジウム報告
- ・ ACM CHI 2004 報告
- ・ 研究会・関連行事カレンダー

新時代の学会の パイロットモデルとしての HCG

平成 16 年度ヒューマンコミュニケーショングループ運営委員長

西田豊明 (京都大学)



平成 16 年度の運営委員長を拝命しました。1 年間どうぞよろしくお願いいたします。

昨年度から、電子情報通信学会の理事会にオブザーバ出席しています。理事会の議論を聞いていると、

学会運営の難しさがひしひしと伝わってきます。学会が学術研究の交流の場として有効に機能するためには、学会経営の面でも成功しなければなりません。コスト削減に努める一方で、リスクを背負って積極的に打って出ることが求められます。電子情報通信学会が新時代の学会にふさわしいものになるためには、たゆむことなく自己改革を継続していく必要があります。

ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) 拡大運営委員会におけるこれまでの議論では、HCG の役割が、ヒューマンコミュニケーションという視点を軸とし、さまざまな壁を越えて横断型の活動を展開するとともに、学会を先導する新しい試みに取り組むことであることが再確認されました。

くしくも、昨年度は、WIT が中心になって提出した学会活性化資金が認められました。HCG が従来から積極的に取り組んでいた新

しい取り組みの賜物であると認識しております。これを受けて情報保障 WG が発足し、アクティブな活動を開始しました。また、6 月 22 日の拡大運営委員会では、新たに第 2 種研究会として「Web インテリジェンスとインタラクション」の設立が決定されました。HCG の存在意義は、こうした努力を積み重ねて、脱皮し続けていくことのなかにあると確信しております。

HCG がさまざまな新しい試みを推進するためには、堅固な基盤に支えられている必要があります。HCG を通して研究発表をする人にとっては、HCG で発表された情報が広く世界に発信されていくようになっていなければなりません。HCG を通して知識を増やそうとする人にとっては、HCG のなかの誰がどのような情報を生み出しているかが把握できなければなりません。HCG を通して横断型の研究や新しい研究の潮流を創出しようとする人にとっては、第 2 種、第 3 種研究会の枠組みをうまく活用できるようになっていなければなりません。HCG の運営に携わる人にとっては、HCG の過去の資産と現状が共有され、協調作業のための機能が整っていなければなりません。また、外部の人が HCG のメンバーにアクセスするためのルートも確立されていなければなりません。最も重要なことは、HCG に関わるさまざまな人たちの間のコミュニケーションを支援する機能が確立されていなければならないことです。

平成 16 年度は、HCG の活動の透明性の確立に焦点をあてた基盤整備を行い、新時代の学会のパイロットモデルとしての役割を強化したいと考えております。

皆様には是非積極的な提言をいただきますようお願い申し上げます。

第1回
ヒューマンコミュニケーション賞
授賞報告

昨年度、当グループ活性化の一環としてヒューマンコミュニケーション賞が創設されました。これは、授賞前年の1月より12月までに、傘下の4つの第1種研究会(HCS, HIP, MVE, WIT)で発表された論文の中から、特に優れた数件を選出し表彰するものです。おおよそ発表50件に対し1件程度の表彰という基準を設け、記念すべき第1回ヒューマンコミュニケーション賞受賞論文として、以下の5件の発表が選ばれました。

なお、授賞式はヒューマンコミュニケーションシンポジウムの会期中、3月26日に行われました。

ヒューマンコミュニケーション基礎研究会
(HCS) (委員長 森島繁生) 受賞論文

■三輪 敬之(早大)、石引 力(早大)、渡辺 隆(早大)、篠原 淳(早大)、「影を自己のエージェントに用いた共存在的コミュニケーションシステムの開発」、HCS2003-12

ヒューマン情報処理研究会(HIP)
(委員長 行場次朗) 受賞論文

■渡邊 淳司(東京大)、田畑 哲稔(cell/66b)、前田 太郎(NTT)、舘 暲(東京大)、「観察者の眼球運動を利用したディスプレイとパフォーマンスの融合」、HIP2003-18

■齊藤 崇子(九大)、中村 知靖(九大)、「項目反応理論を用いた表情認知能力の測定」、HIP2003-63

マルチメディア・仮想環境基礎研究会
(MVE) (委員長 横井茂樹) 受賞論文

■塙 大(茨城大)、米倉 達弘(茨城大)、「マルコフモデルによる同期更新型DVE上の情報品質劣化モデルの解析」、MVE2003-67

福祉情報工学研究会(WIT)
(委員長 岡本 明) 受賞論文

■立入 哉(愛媛大)、井上 かおり(宇和島学校)、宮武 由佳(神戸総合医療介護福祉専門学校)、「音声認識を利用した聴覚障害学生学習保障システムについて」、WIT2003-8

第9回 ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)
シンポジウム報告
相澤清晴(東京大学)

ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)では、毎年恒例となっているグループ大会をこの3月25、26日に総合大会と会場を同じくして東工大にて開催しました。

HCG傘下の4研究会の研究会に加えて、特別企画として「会話情報学：会話を中心とする新しいインタラクション・コンテンツ融合技術の展開」(オーガナイザ 西田豊明)及び「情報機器アクセシビリティ関連JISの最新動向とその影響を探る」(オーガナイザ 岡本明)を行いました。昨年度からの試みを継続し総合大会に半分重なるように日程を設け、今回は昨年をさらに上回る71件もの発表(特別企画の11件含む)が行われ、多くの参加者による活発な質疑が行われました。当日の講演の演題などはホームページ<http://www.ieice.org/hcg/jpn>をご参照願います。また、優秀研究会論文を表彰する「ヒューマンコミュニケーション賞」の贈呈式も26日懇談昼食会の場にて行われ、受賞者には西田正吾前委員長より賞状と記念品が贈呈されました。

なお、今回は05年3月23~25日であり、総合大会と日程を半分重ねて阪大で行われる予定です。奮ってのご参加をお願いします。

共催イベント報告
ACM CHI 2004
小川剛史 (大阪大学)

2004 年 4 月 24 日から 29 日までの 6 日間、オーストリアのウィーンにて ACM SIGCHI 主催の国際会議 CHI2004(Conference on Human Factors in Computing Systems) が開催された。ウィーンは、オーストリアの首都として、またモーツァルトなど数々の音楽家が創作活動をおこなった「音楽の都」として有名な都市である。会議場はウィーン郊外にある Austria Center Vienna で、昨年の 1,600 名を上回る約 1,800 名の参加者が集まり、興味深い数多くの発表と活発な議論が繰り広げられた。論文の採択率は約 15.5% (投稿数約 600 件、採択 93 件) と非常に厳しかったが、論文発表に加えて招待講演 2 件、ショートトーク 125 件 (投稿数 500 件)、そしてポスター、パネル、デモ、SIG、DESIGN EXPO など、全発表件数は 300 件を越え盛りだくさんであった。しかし、発表は 10 もの会場で平行に行われており、興味のある発表の会場を確認してスケジュールリングすることは極めて困難であった。しかも今年から、プロシーディングスが CD-R になり、簡単にペーパーを流し読みできなかつた点も頭を悩ませた要因となっていた。

以下では、テクニカルプログラムにおいて報告者が特に興味を持った研究について紹介する。最近では IC タグのついたキャッシュカードやクレジットカードが普及しているが、カード型のコンピュータが普及したらどのように操作すべきかという点に注目した研究が、Sony CSL Carsten Schwesig 氏らの Gummi: A Bendable Computer である。多くの場合カードを財布や定期入れなどに入れて持ち歩いているが、カードにボタンなどの入力デバイスをつけると持ち運びが不便になる。そこで Gummi では、カードの裏に付けたタッチパネルでメニューをスライドさせ、カードを曲げて決定する。これを繰り返すことで階層メニューの操作や、フォトアルバムや路線図、駅周辺の地図などを閲覧することができる。カードを曲げることによる入力では、単なる On/Off だけでなく、カードの曲げ具合によるアナログ入力も可能で、メニューや地図の切り替えにアルファブレンディングを用いることで選択後の内容が確認できる。



CHI2004 の会場となった Austria Center Vienna

発表終了後、プロトタイプ (実際にはまだカード型ではなかったが) を触ってみると、操作性も良くカード型コンピュータ登場の可能性を感じた。現在の携帯電話に変わる新たな情報機器として期待したい。ただ、ズボンのポケットに財布や定期入れを入れられなくなり、不便に感じる人もいるかもしれない。

従来、脈拍や血圧、心拍数、脳波など生体情報を用いたゲームやシステムでは、電極を装着したり、そのためにクリームを身体に塗る必要がある、利用者の負担が大きかった。また、得られるデータも個人差が大きく、周りの環境に影響を受けるといった問題もあった。こうした問題を解決した、生体情報を用いたインタフェースとして提案されたのが、Sony CSL 暦本純一氏らの Sensing GamePad: Electrostatic Potential Sensing for Enhancing Entertainment Oriented Interactions である。Sensing GamePad では、地上に立っていると地面側 (足) にマイナスの電気が引き寄せられ、身体がプラスになる現象を利用し、ゲームパッドに貼り付けた電極で人体の静電位を測定しユーザの足の動きを検出する。地面から足が離れると足元に引き寄せられる電気の量が変化するため、片足を上げたり、ジャンプしたりする動作を検出できる。この人体静電位計測は、個人差の影響もなく、靴を履いていても検出可能である。デモビデオでは、タイトル通りゲームの様子が紹介されていたが、他にも応用範囲は広そうに感じた。

他にも多くの発表が行われていた。プログラム等詳細は <http://www.chi2004.org/> に掲載されているのでそちらを参照していただきたい。なお、次回の CHI は 2005 年 4 月 2 日から 7 日にアメリカ合衆国オレゴン州のポートランドにて開催される予定である。詳細は下記の URL で参照できる。 <http://www.chi2005.org/>

ヒューマンコミュニケーショングループ研究会・関連行事カレンダー

詳しくは、HCG ホームページ <http://www.ieice.org/hcg/jpn/> をご覧ください。

— 2004年9月 —

- ★第3回情報科学技術フォーラム (FIT2004)
【期日】2004年9月7日(火)～9日(木)
【会場】同志社大学
【HP】<http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/fit/fit2004/>
- ★ヒューマンコミュニケーション基礎(HCS)研究会
【期日】2004年9月26日(日)
【会場】名古屋市科学館
【題目】顔とコミュニケーション
【共催】日本顔学会、映像情報メディア学会メディア工学研究会

— 2004年10月 —

- ★福祉情報工学 (WIT)研究会
【期日】2004年10月28日(木)～29日(金)
【会場】工学院大学
【題目】福祉と音声処理
【共催】SP と共催予定
- ★マルチメディア・仮想環境基礎(MVE)研究会
【期日】2004年10月28日(木)～29日(金)
【会場】中京大学
【題目】エンターテインメントと仮想環境
【共催】日本バーチャルリアリティ学会エンターテインメントVR研究委員会

— 2004年11月 —

- ★ヒューマン情報処理(HIP)研究会
【期日】2004年11月18日(木)～19日(金)
【会場】福井大学
【題目】顔・ジェスチャ認識および一般
【共催】PRMU と共催
- ★ヒューマンコミュニケーション基礎(HCS)研究会
【期日】2004年11月19日(金)～20日(土)
【会場】香川大学
【題目】音声とコミュニケーションおよび一般
【共催】人工知能学会 SLUD 研究会と共催予定
- ★CW2004, 2004 International Conference on Cyberworlds
【期日】2004年11月18日(木)～20日(土)
【会場】東京工業大学
【HP】<http://cw2004.myvnc.com/new-index.html>
【共催】HCG は協賛
- ★PCM2004, Pacific Rim Conference on Multimedia 2004
【期日】2004年11月30日(火)～12月3日(金)
【会場】東京国際交流館 (お台場)
【HP】<http://www.pcm2004.org/>
【共催】HCG は協賛

— 2004年12月 —

- ★マルチメディア・仮想環境基礎(MVE)研究会
【期日】2004年12月6日(月)～7日(火)
【会場】種子島 (計画中)
- ★ヒューマン情報処理(HIP)研究会
【期日】2004年12月16日(木)～17日(金)
【会場】東北大学
【題目】感性情報処理の基礎と応用および一般
【共催】東北大学電気通信研究所音響工学研究会

— 2005年1月 —

- ★福祉情報工学 (WIT)研究会
【期日】2004年1月27日(木)～28日(金) (予定)
【会場】東京工科大学 (予定)
【題目】福祉と知能・認知障害/一般 (予定)
【共催】TL と共催
- ★マルチメディア・仮想環境基礎(MVE)研究会
【期日】2005年1月27日(木)～28日(金)
【会場】未定
【題目】未定
【共催】CQ と共催
- ★ヒューマンコミュニケーション基礎(HCS)研究会 & ヒューマン情報処理(HIP)研究会
【期日】2005年1月下旬
【会場】未定
【題目】自動車・交通におけるコミュニケーション&インタフェース
【共催】HI 学会研究会と共催予定

— 2005年3月 —

- ★HCG シンポジウム
【期日】2005年3月23日(水)～25日(金)
【会場】大阪大学 豊中キャンパス
【備考】総合大会は大阪大学 豊中キャンパスにて3月21日(月)～24日(木)に開催

— 2005年4月 —

- ★ACM CHI 2005
【期日】2005年4月2日(土)～7日(木)
【会場】米国 ポートランド
【HP】<http://www.chi2005.org>

— 2005年5月 —

- ★2005 ICME International Conference on Complex Medical Engineering - CME 2005
【期日】2005年5月15日(日)～18日(水)
【会場】かがわ国際会議場
【備考】HCG は協賛